

「 第2回 イングリッシュアドベンチャー 」

～赤城の森で英語体験～

1. 趣旨

2020年度の小学校新学習指導要領の本格実施に向け、国立の教育機関として、教育内容の改善と充実を目指し、本事業を実施する。昨今の保護者の英語教育に対する関心やニーズは高く、新学習指導要領の内容をプログラムに取り入れながら、英語をコミュニケーションツールとして位置づけ、小学生の体験活動を推進する一助とする。

2. 事業の概要

(1) 期日

平成30年9月15日(土)～16日(日)

(2) 参加者

①参加対象 小学校4年生

②参加人数 23名 (応募総数45名)

群馬県前橋市19名、高崎市1名、太田市2名、玉村町1名、

3. 企画運営のポイント

- ①体験活動を中心に据え、積極的に英語を用いてコミュニケーションを行いたいと思う場面を意図的に設定し、楽しみながら英語に親しみ、英語を使ってコミュニケーションをしてみたいと思わせるプログラム構成にする。
- ②野外炊事や自然体験活動に係るプログラムについては、事前に当所職員が外部講師に対して進行方法や安全管理等の事前指導を行う。外部講師は各プログラムの中でパネル等を活用するなど、小学生が英語を使いやすい雰囲気づくりを行う。

4. 日程

	午 前	午 後	夜
9月 15日 (土)	開会式 仲間と英語ではじめまして！ ・アイスブレイク ・スカベンジャーハント	英語を使ってドラム缶ピザ作り ・デザートピザコンテスト	英語を使ってキャンプファイヤー ・英語の歌遊び (Hokey Pokey など) ・スモアづくり
9月 16日 (日)	英語でお店屋さんを開こう① ・開店準備 ・リハーサル	英語でお店屋さんを開こう② ・英語を使って買い物 振り返り 閉会式	

5. 主な活動内容



He (She) likes… アイスブレイク



ドラム缶でデザートピザ作り



英語でお店屋さんを開こう

6. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足18名(78%) やや満足5名(22%) やや不満0名 不満0名

(2) 参加者の声

- ・このプログラムをとおして、英語をもっと使って話したいと思った。
- ・たくさんの英語が学べて、楽しかったです。
- ・ほかの学校の人と友達になれた。
- ・次もこのようなプログラムがあったら参加したい。

(3) 成果

20名の定員に対して、45名の応募があり、抽選で23名を決定した。

前回(7月)のポスターセッションの様子を踏まえ、今回はお店屋さんで買い物をするという場面設定をし、店員とお客という役で英語を使った会話を促すという試みで行った。この設定が功を奏し、英語による活発な受け答えが見られた。理由としては、

- ①買い物というシチュエーションは子供達にとって日常的であること。
- ②前日のデザートピザ作りから「～を下さい。」を繰り返し使い、意識付けた。
- ③発表ではないため、繰り返し英語を使うことができる。

ということが考えられる。

日常的な生活の場面で英語を使うことが、活発に英語を使い、コミュニケーションを促進させることにつながるということが分かった。

初日は初対面で緊張していた参加者が仲良くなり、次の日には英語を使って積極的にコミュニケーションを取れるようになった背景には、宝探しやキャンプファイヤー、デザートピザ作りなどの体験活動が効果的に機能していたことが実証できた。

(4) 課題

講師が全て英語で話しかけると、分からない言葉が多すぎるため、最後まで聞いてもらえない子供が多くいた。小学4年生では、全ての活動を英語の説明で通すと理解ができないと考えたため、指示を徹底する必要がある事項には、職員が日本語で最小限度の補足説明を行った。

「やや満足」の理由は「英語が難しかった」と感じた子供が少なからずいたためである。学年が低い場合は、英語の説明と日本語の説明のバランスをうまく取らないと、英語に対する抵抗感につながる感じた。

逆に、体験活動や宿舎での生活の場面では、講師や班付きリーダーが積極的に英語で話しかけていくことで、英語でのコミュニケーションを増やしていくことができると考える。